



村小だより

平成29年12月14日発行

年越しの魚「鮭」が縁で

校長 鈴木 正美

2学期(81日間)も来週終業式を迎えます。例年になく残暑が緩かった9月、涼しく過ごしやすかった10月、荒天が多く、早めの寒波の訪れに「暖」が不可欠となった11月、そして、12月と気候もずいぶん変化した2学期でした。

この間、子どもたちは日々の活動はもちろんのこと、運動会や文化祭等の学校行事に向けた練習や制作活動に精一杯取り組み、大きな成果を発表してくれました。一人で黙々と取り組むことやみんなと力を合わせて取り組むことに、よくがんばった村小っ子だったと思います。

師走も半ば。どのご家庭でも「年越しや新年を迎える」ため、普段と違う準備があると思います。是非、お子さんに応じた役割を与え、取り組ませ、認めてやって、成長を自覚させ、「家族(地域)の大事な一員であること」を実感させてほしいと願っています。間もなく冬休みになりますが、楽しく安全な生活が送れるよう、家庭、地域での見守り等、お願いいたします。

さて、最近「鮭」に関わった縁を感じる「有り難く心温まる出来事」がありました。今年最後の本号で広く地域の方々にも紹介し、2017年の締めとさせていただきます。

<11/16(木) 塩引き作り> ※4、5年生で実施

ボランティアで参加くださった村上生活学校会員のYさんから手紙が届きました。子どもたちの説明を聞いたり、作業を行ったりする態度がとてもよく、大変嬉しくなったと言うのです。また、この方は2年前まで、村小放課後支援にも携わってくださっており、4年生のNさんが、当時一緒に遊んだことを覚えていてくれたことも重なり、塩引き作りがとても感慨深いひと時となったのだそうです。そこで、会員のみなさんで話し合い、手作りの「ご殿まり」をご褒美として、4、5年生全員に贈ってくださいました。

<12/1(金) 大阪府高槻市のHさんからの電話>

「応援歌のCDがあれば譲ってほしい」というお願いでした。入院している96歳の父親を見舞った時のこと。TVを付けていた父親が、普段声もあまり出なくなっているにもかかわらず、突然「三面川の流れ…清く…戦わん」と小声でつぶやき、「子どものころよく歌った」と話したのだそうです。それに驚いた娘のHさんは、何の歌なのかを調べるため、その言葉をインターネット検索したところ、それが「村上小学校応援歌の歌詞」であることが分かりました。同時に、父親は子どもの頃、親の仕事(栗島で教員)の関係で村上に住んでいた時期があったことも思い出したそうです。ならば、何とかしてその歌を父親に聴かせてやりたいと考え、思い切って電話をしたとのことでした。

私は、この事実に驚きながらも、事情を察し、何とか依頼に応じることを約束して受話器を置きました。(この間、私にはHさんの感極まった様子が伝わってきました。)

週明けにCDを届けました。翌日には、「これで父の見舞いに行ったら応援歌を聴かせてやれます。」とお礼の電話をもらいました。その時私は、どうしてお父様が、応援歌を思い出したのかと尋ねてみました。すると、あの時お父様が見ていた番組は、鮭の遡上プロジェクトのような内容で、「三面川の鮭漁」、「塩引き鮭」など、鮭を大事にする村上のことが多く取り上げられたものだったそうです。私は、もしかしたら私も含め多くの村上市民が見たろう「あの番組」かなと思いながら、聞いていました。

～今年一年のご理解とご協力に感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。～

